

ねぎしようちえんだより 7月号



人と関わる中で学ぶ



園長 大村 弘子

この頃、年少ことり組では子供たちの名前がよく聞かれるようになりました。子供たちから教師への言葉や子供たち同士のやりとりの言葉も増えてきたように感じます。入園当初は、自分のしたいことが優先され、他の子が使っているおもちゃを黙って取ろうとしたり、他の子が遊んでいるところに無理やり入ったりしてトラブルになっていたこともありました。しかし、今は、他の子の様子や周りの状況に気持ちが向くようになってきています。たとえば、巧技台で遊んでいるときには横から入らず順番を守り、前の子が進んでから自分も進む姿や自分が使いたいおもちゃを他の子が使っていると「貸して」と言う姿が増えてきています。これは、他の子の遊ぶ姿を尊重しているということだと思います。大きな成長です。また、他の子が楽しそうにしていると「同じようにやりたい」、「〇〇ちゃんと一緒にいたい」などの気持ちが強くなってきています。人と一緒に過ごすことの楽しさを感じているからこそだと思います。自分のやりたいことにじっくり取り組み楽しむことを大切にしながら、人と一緒に過ごす楽しさを十分味わえるように保育を進めているところです。

おもちゃを「貸して」と言ったときに断られる場合もあります。「だめよ」と言った子の気持ちは“今楽しく遊んでいるところだからやめたくない”“そのおもちゃを使って少ししか遊んでいない”など様々です。「貸して」と言った子の気持ちは“楽しそうだから私もやりたい”“さっき遊んでいたからまたやりたい”などでしょうか。

園では、教師がそれぞれの気持ちを丁寧に読み取ったり聞いたりして代弁しています。自分の気持ちを言葉で表現することが難しく、とっさに手が出てしまうこともあります。安心して自分のありのままの気持ちを表現できることは大きな成長ですが、手を出すのではなく言葉で言えるように指導しています。「使いたかったね」と気持ちに寄り添いながら、「でも、今使ってるんだって。少し遊んだら貸してもらおうか」と話し、使っている子に「少し遊んだら貸してね」と一緒に伝えるなどしています。または、同じような物を探したり他の遊びと一緒に考えたりして、自分で気持ちを切り替えて納得できるように援助しています。

人と関わる中で起きたトラブルを形だけ円満に解決するのではなく、相手の気持ちや都合があることに気付くことを大切にしています。幼稚園で同年代の子供たちと生活し、自分の思い通りにならない経験や友達と一緒にだからこそ楽しい経験などを積み重ねていく中で、相手の気持ちに気付き受け止め、どうしたらお互いに気持ちよく遊んだり生活したりできるのか、3年間をかけて学んでいきます。年少組、年中組での学びが、年長組の共通の目的に向かって協力し合う姿や互いを認め合う姿につながっていきます。

今年度の園内研究のテーマは「一人一人が自分を発揮し、関わり合い、育ち合うための教師の援助～人との関わりに着目して～」です。人との関わりを視点に私たちも学びを深めています。

1学期、たくさんのご支援ご協力をいただき、ありがとうございました。

